



# CIF JAPAN

NEWSLETTER No.21

Council of International Fellowship

発行人 CIF ジャパン事務局長 坂本正路

編集人同 浅野純江 発行日 2009年12月

## 第28回 CIF 国際大会(フィンランド)

### 日本から2名参加

2009年7月、「対話—相互理解と平和を推進する方法」をテーマに CIF 国際大会が開催され、有意義な協議がおこなわれました。別添にて国際大会報告書をお送りします。また、大会に先立ち CIF 各国代表者会議が行われ、日本からは竹内会長が出席しました。

(報告本紙 2ページ)



CIF Conference 2009 / Kiljova Finland

## 2009年度 CIF ジャパン総会・役員会開催



6月13日、京都市山科区所在の社会福祉法人ミッションからしだね館の会議室を（同法人理事長・CIF ジャパン副会長坂岡隆司氏のご好意により）会場としてお借りし、日本各地から10名の会員が参加して本年度の総会が開催されました。また、2009年度第1回役員会は同日総会前に、第2回役員会は2009年11月28日、同会場にておこなわれ、事業計画・予算に関する協議、国際研修プログラム募集の現状と対策、CIF 国際会議についてなど多岐にわたり話し合いがおこなわれました。総会議事録ならびに会員住所一覧（総会にて配布を決議）をお送りします。

## CIF スペイン会員トマサ教授来日

10月初旬、スペインサラゴサ大学社会福祉学部教授のトマサさん(Prof. Tomasa Banez Tello)が来日、東京と京都で CIF ジャパン会員等との交流プログラムに参加されました。

東京では、10月8日(木)昭和女子大学の秋山智久教授(1974年 CIP シカゴ参加)の尽力により、同大学においてトマサ教授の特別講演会がおこなわれました。また、京都では社会福祉施設見学や観光など日本の人びととの交流を深めました。(記事本紙 3-4ページ)

## 国際研修プログラム募集記事 福祉新聞に掲載

11月30日発行の福祉新聞に CIP/CIF 国際研修プログラム募集記事を掲載していただきました(右写真)。会員の皆様もお知り合いの社会福祉従事者をご推薦ください。



## C I F 各国代表者(BD)会議から (報告)

会長 竹内 和利

ヘルシンキ郊外 Kiljava での国際大会に先立って、同じ会場で BD 会議が 3 日間開かれこれに出席しました。審議・決定事項のなかからいくつか拾ってお知らせします。

1. 2010 年 8 月 27-29 日の 3 日間、ハンブルグにおいて、C I F 創立 5 0 周年を記念して、CIF ドイツ主催で、”Intercultural Social Work”をテーマにシンポジウムが開催されます。過日皆さんにドイツの研究者から依頼のあったアンケートの結果も公表される予定です。各国からの参加が望まれています。(詳細は最近の World News を参照ください。)
2. 次回 2011 年の国際大会は CIF キプロスの主催により、同年 7 月下旬ニコシアでの開催が決定しました。尚、2013 年はトルコでの開催が浮上しています。
3. 今回、米国の CIPUSA を代表して、ご存じの方も多いと思いますが、Dorothy Faller 女史(夫妻:写真)が会議に出席されました。CIPUSA の近頃の動向として、米国の大学生グループによる他国での短期研修や、反対に世界各地からの学生グループによる米国内短期研修に関心を向けておられました。こうしたことから、従来からの CIP プログラムへの参加者に減少がみられるのではと思いましたが、問い合わせの結果、実数は教えて貰えませんでしたが決して多くない様子がうかがえます。参加者の低調さを反映してか、女史が、CIF にも CIP にも研修参加者の募集がことのほか重要だと会議中に力説しておられたことが印象に残っています。
4. Dorothy 女史は数年前から、CIF の運営委員会に adviser として参与され、自ら Strategic Planning Process (SPP)を提唱され CIF の運営に「変革」を促してこられました。「このままでは CIF は死滅する」という危機意識を役員等に認識させ、組織運営の活性化をめざして BD 会議を鼓舞してこられました。その一環として、CIF に力量のある専従職員を配置し、資金集めと P R を担当させることが検討されてきました。今回も結論がでませんでした、実現に向けて作業部会が設けられました。
5. CIF フランスから EU 諸国間の交流研修の促進が提唱される一方、CIF オーストラリア会長ペップルさんから、アジア・太平洋地域の CIF 連携について提議がありました。ペップルさんは中国系の方で、中国では目下ソーシャル・ワーカーの育成が急がれており、CIF による支援のチャンスだとも述べておられます。今後この地域では支部の立ち上げなど、わが方の協力も要請されると思います。大会ではタイのコンタクト・パーソン、Ajara さんにも初めて出会う機会があり、意見を交換しました。
6. 先の World News(March,2009)の 26 頁に掲載されていますが、長らく CIPUSA や CIF のため精力的に活躍された故ポール・アンガー(Paul Unger)氏を偲んで、氏が生前に夫人と創設された Paul and Sonja Unger Fund に募金協力が呼びかけられています。これは大会後、ミンモ・メローラ新会長からのメールでの要請です。この Fund はこれまで、途上国の大会参加者の旅費支援に貢献してきました。寄付の申し入れは下記宛メールでご連絡下さい。

受付 : Ms.Maria Hierlinger-Gudat, Treasurer CIF International

メールアドレス : [maria.hierlinger@cifinternational.com](mailto:maria.hierlinger@cifinternational.com)



## トマサ教授特別講演会(東京)

当日は台風の接近により、大学生の参加はありませんでしたが、それでも10名が集い、その中の3名の方は日本社会福祉士会のホームページの案内を見ての参加でした。

講演はスペインの社会事業の歴史、現状、課題、そして大学に於ける社会事業教育について約2時間にわたって語られました。(詳細はソーシャルワーカー協会報第62号) そのあと、会場を近くの食堂に移し、食事を共にしながら、親睦のひとときを持ちましたが、トマサ教授はCIFジャパンのために遠くスペインから陶器板の掛け時計を持参し、プレゼントしていただきました。トマサ教授はスペインの社会福祉を学びたい人物を日本から送ってほしいと熱っぽく語られて懇親の時を終えました。(坂本記)

## トマサ教授特別講演会に参加して

小池 嘉夫



去る10月8日昭和女子大において秋山智久先生のきもいりで小さな勉強会が持たれました。講師は遠来の方でスペインのサラゴサ大学福祉学部の教授トマサさん、CIFスペインのコンタクトパーソンです。当日はあいにくの超大型台風の影響を受けて大学が休講になったために学生の参加はありませんでしたが、CIFのメンバーの他に知的障害者グループホームの職員や成年後見人制度関連の方々も加わり、通訳をされた坂間治子さんの実によく明快な解説もあって内容豊富な勉強会が順調にスタートしました。各国の福祉についてシリーズで紹介された出版図書類は沢山見かけるのですが、浅学の私は社会事業教育の実情については疎いというかほとんど無知に近かったので、とても興味深いテーマと且つ内容も示唆に富んだプレゼンテーションのおかげでとても有意義な一時を過ごすことができました。スペインでの教育は歴史的にカトリックに負うところが多く社会事業に関しても例外ではなかったとのことです。殊に19世紀においてカリタスが果たした功績はたいへんに大きかったとのことです。当時は社会事業といえは従事者はすべからずカトリックの女性信徒で、大方が中流家庭ないし良家の子女でした。彼女たちは自分自身の能力開発を目指して学び、それがクライアントの処遇の向上に繋がるものと信じていたわけで、そこには労働に就くという意識はなかったのです。このことは後になって近代化の過程で労働契約とか賃金交渉などの問題が発生した時に少なくとも世間的な混乱を招くことになりました。こうした伝統はスペインにおける社会事業教育に少なからざる影響を与えているよう思われます。理論的な概念の構築にもまして社会事業従事者としての意識を高めるためのカリキュラムを重視し現場実習ないし実践的教育を大事にしているということをお聞きし、そうしたところにとっても興味が湧きました。トマサさんのお話は縦軸でスペインの歴史、すなわち政治史、文化、若者たちに見られる意識の変遷などを時系列で語り、横軸にはEUを置いてフランス、ドイツ、北欧諸国だけでなく南ヨーロッパの国々のことも引き合いに出し比較しながら話された上に移民問題などにも触れられたのでとても厚みのある説明となりました。参加者も積極的に質問しており回答も適切でした。私の意地悪な質問にも誠実に答えてくれました。「フランコ将軍はスペイン人から見たとき英雄というべきなのか? それとも

無謀な独裁者と見るのか？ どちらですか？」 答えていわく「彼は紛れもなく独裁者でした。彼のおかげでスペインの民主化は36年も遅れてしまったのです。彼は牢に縛りつけられておかれるべき人物でした。」明快な反応にはさもありなんと安心しながら日本の小説家の書いた小説の中の奇妙なフランコ像と比べてみたのでした。勉強会の後、近くの居酒屋で歓談したのも袴を脱いでの楽しい一時でした。秋山先生には有意義な企画を催して下さり深く感謝いたします。

## 社会福祉施設訪問（京都）



去る10月21日、飛騨高山から京都に着かれたトマサさんは、好天に恵まれ、京都で3日、奈良で1日を過ごされ、25日には姫路をへて秋の宮島、広島を訪問、九州方面に向かわれました。京都では、坂岡副会長の精神障害者授産施設「からしだね館」にご案内し、施設見学とスタッフの方達との情報交流の機会をもちました。その後翌日の時代祭見物をふくめて、3日間市内各所を観光され、23日夕方には、トマサさんとCIF関係者3名とでささやかながら会食と歓談の機会をもちました。（竹内記）

## 「オレンドルフ夫人100歳の誕生日を祝う」

CIP前CEOのドロシー・ファラーさんからメールで、11月23日にCIP創設者ヘンリー・オレンドルフ氏の夫人マルタ・オレンドルフさんが100歳の誕生日を迎えられるので、CIFジャパンからもグリーティングを送って欲しいという要請がありました。

CIFジャパンの全役員にメールでお伝えしたところ、竹内会長から私にCIFジャパンの名で誕生カードを送るようにというお言葉がありましたので、CIFジャパンの名で、お祝いのカードを送りました。

ファラーさんのメールには、第1回CIPプログラムの参加者アニタ・ゲルデスさんがベルリンからマルタさんの100歳の誕生日祝いに出席するために来ておられ、ファラー家に滞在されていると書かれていました。マルタさんの誕生日祝いにはCIP・各国CIFから多くの祝辞が寄せられ、CIP・CIF関係者の出席を得て、マルタさんの長寿を祝うとともに、職業的能力向上と異文化交流を通して国際理解を深め、ひいては世界平和に貢献するという理想を実現しようとオレンドルフ氏によって始められたCIPプログラムに参加できたことの感謝をマルタさんにお伝えしたことでしょ。

（梶村記）

## World News November 2009 が発行されました

フィンランド大会報告、2010年ドイツで開催予定のCIP創立50周年記念シンポジウムの案内、各国で行われている国際研修プログラムの様子、ドイツ人学者が実施したCIP/CIF関係者アンケート調査とCIP/CIFが歴史的・社会的に果たした役割評価に関する中間報告など、情報満載です。

[http://www.cifinternational.com/sites/default/files/WN\\_Nov\\_2009.pdf](http://www.cifinternational.com/sites/default/files/WN_Nov_2009.pdf) でご覧になれます。（CIF ホームページ <http://www.cifinternational.com/>）

本紙（ニューズレター No.21）添付資料：

1. 第28回CIF国際大会報告書
2. 2009年度CIFジャパン総会議事録
3. CIFジャパン会員住所一覧
4. World News November 2009  
(2009年度会費納入者のみ)